

平成29年度 学校評価実施報告書

白河総合支援学校

1 1回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(前年度評価を踏まえた) 自校の取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・各種指標
確かな学力	職場実習と専門・教科学習の連携による生きる力の育成	職場実習・専門教科・教科の学習を関連付け、それぞれの学習場面における評価や課題を他の学習場面に活かす取り組みを行う	・「わかった」「できた」といった喜びを感じているか ・キャリアデザインの作成状況の確認
	自ら考え言葉にして他者に伝える表現力の向上	・来校者に学校説明のプレゼンテーションや専門教科での説明等を行う ・地域協働活動での説明、宣伝活動、振返りを行う	・オープンキャンパスや学校見学等の参加回数 ・地域協働活動の回数と参加生徒数
豊かな心	協力して一つのことを成し遂げることにによる充足感や自己有用感の向上	・職場実習 ・高齢者体操教室、配食サービス、交流農園、錦林児童館との協働活動、錦林小学校との共生学習等	・企業や地域の協力に感謝の気持ちを持っているか ・自分はかけがえのない大切な存在だと思っている
	協働活動における豊かな人間関係の育成	・地域協働活動を通してコミュニケーションの充実を図る	・地域の協力があり、地域との活動ができて感謝している ・地域の方からの意見
健やかな体	基本的生活習慣の確立	朝食をとることで清潔にするための呼びかけ	・朝ご飯を食べている ・清潔な心がけている
	就労に向けた基礎体力の向上	専門教科と体育における体力の向上を目指した学習内容の設定	・専門教科の授業で「できた」「うれしかった」ことがある ・教科の授業で「できた」「うれしかった」ことがある
独自の項目	学びの環境の多様化	・リソース(教育資源)の活用 ・錦林小学校育成学級・児童館との共生学習	・リソース(教育資源)の活用回数 ・共生学習の回数や内容
	情報発信の充実	積極的なホームページの更新(月予定等も含む)	学校ホームページの掲載数
	伝統文化にふれ生活の幅を広げる	・茶道に触れる授業を設定する ・着物の着付け体験や能楽鑑賞に参加し伝統文化に触れる	・授業の振返りの中で、生徒の気持ちやどう変化したか確認する。



・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成29年10月12日
	評価者・組織	学校評価委員会
アンケート結果・各種指標結果	分析(成果と課題)	分析を踏まえた改善策
・「そう思う」「大体そう思う」が職場実習で92%、専門教科で90%、教科で78%と28年後期より増加している ・キャリアデザインを活用し、職場実習・専門教科・教科の3つの学習場面を関連付けられた ・オープンキャンパスは前期に9回実施延べ144名が案内・説明をした ・地域協働活動は1カ月に35回程度実施し、延べ150名以上が参加	・職場実習、専門教科、教科の生徒の満足度が高まっている ・職場実習での課題をキャリアデザインを通して専門や教科の学習に活かしている。 ・学校の活動を全て学びの場として捉え、人の前で話す機会や地域の方と一緒に活動し会話をする機会の推進で、自分の考えを相手に伝える力がついてきた ・企業や地域の方と一緒に活動し成果を上げることができたことで、周りの人のことを自分のことのように考えられる生徒が増えた ・地域協働の場と回数が増え、地元の小学校、児童館との交流も広がり深まった ・支援がなくても自分から地域の方と話ができるようになってきた ・生徒のみで児童館への打ち合わせにも行っている	・共通教科を専門教科や実習・日常生活を支える教科として位置づけ、経年で学習内容の検討を行っている。 ・主体的で、対話的な深い学習を意識し、生徒の気づき・振返りができるよう継続する ・キャリアデザインの意図の共通理解と活用の徹底を図る ・オープンキャンパスのプレゼンテーションを各専門教科で実施し、日常生活を支える教科として位置づけ、経年で学習内容の検討を行っている。 ・主体的で、対話的な深い学習を意識し、授業改善を行う
・「そう思う」「大体そう思う」が企業97%・地域88%で昨年度より増加している ・「そう思う」「大体そう思う」が57% ・「そう思う」「大体そう思う」が88% ・生徒は自分から挨拶をし、一緒に準備や作業をしてくれるので助かる、元気をもらっている等の意見を頂いている	・「そう思う」「大体そう思う」が企業97%・地域88%で昨年度より増加している ・「そう思う」「大体そう思う」が57% ・「そう思う」「大体そう思う」が88% ・生徒は自分から挨拶をし、一緒に準備や作業をしてくれるので助かる、元気をもらっている等の意見を頂いている	・直接的なやり取りができるような学習の場を意識して継続設定している ・地域協働活動の場や回数は充実しているため、意味づけをしっかりと行って推進していく
・「そう思う」「大体そう思う」が朝食78%、清潔96%	・「そう思う」「大体そう思う」が朝食78%、清潔96%	
・専門教科では「そう思う」「大体そう思う」が90% ・教科では「そう思う」「大体そう思う」が78%	・専門教科では「そう思う」「大体そう思う」が90% ・教科では「そう思う」「大体そう思う」が78%	
・リソース活用は1回来校(一人東山より情報印刷)・小学生来校は1回(6名)・児童館でパン販売前期約50回、延150人参加 イベント打ち合わせ等もあり	・小学校・児童館との共生学習は進んできている。特に児童館とは今年度イベントの内容にも参画したりしている	・校種・年齢を超えた関わりを設定し、自ら学んだ内容を発信できる場を設定。 ・地域制総合支援学校の生徒の参加を検討中
・学校の様子・月行事予定等を151回掲載した(10/6まで) <28年前期は140回(10/7)>	・学校の様子を掲示するだけでなく、行事予定や施設利用の案内などの案内も進められた	・リアルタイムの発信 ・色々な立場の教職員からの発信
・月1回実施し、全校生徒が学べる場を設定(選択「音楽」「美術」の時間)	・準備や後片付けも含んで積極的に、楽しんで取り組んでいる	・選択教科「音楽」「美術」を3学年で履修することとした。 ・3学年とも、茶道体験できるよう設定している



学校関係者評価	
評価日	平成29年10月16日
評価者	学校運営協議会
学校関係者による意見	学校運営協議会による改善に向けた支援策
・キャリアデザインを活用した学習の継続が大切である ・社会に出てから、自分の思いや考えていることを伝えること、相手に分かるように伝えることは大切なことで、継続して取り組むべきである。	・支援策ではないが、「振返り」と「気付き」を大切にして、「なぜ何のためにその学習や活動に取り組むのか」ということが大切である。今後の推進状況を見守っていく。
・アンケート結果を見ると「自分はかけがえのない大切な存在である」という割合はまだ少ないものの、昨年度比で増加しているのは、地域協働活動等の取組の成果だと思う。	・社会福祉協議会や地域のイベント等で、地域と生徒が協働していける場の設定を検討していく。 ・花と緑のプロジェクトで「エデュトープ」の再開発について、土木的な助言等ができる。外部専門家も交えて相談に応じられる。
体力向上に関しては、各種スポーツ大会への積極的な参加も見られている。部活動も活発に行われていることも健康増進につながっているのではないかと。	食、清潔、体力の他に、性教育も大切。「性と生の学習」も学年と保健室が連携して進められてきていて、研究発表会でのポスター発表も予定されている。「豊かな心」と合わせて思春期の生徒たちには大切な指導であり期待している。
学校を越えたリソース活用の取組は学習のばの多様化につながる。 情報発信については、ホームページ、学校見学等で積極的にされていることがよく分かる。 伝統文化を教育課程に取り入れて取り組んでいることで充実していると思われる。	学校の取組については、関係部署等で伝えたりしていく。 伝統文化では、地域の方が茶道講師をしたり量の寄付をしたりしているが支援を継続していく。